

「ペットのしつけと5つの自由」

ペットとともに快適に楽しく暮らすためには、ペットに適切なしつけを行うことが必要です。しつけができれば、オーナーはペットと過ごす機会が増えると同時に、ペット自身も活動の場が広がり、様々な社会生活の中でオーナーと時間を共有することができるようになります。その結果、適切なしつけを受けたペットを飼育することのメリットを社会全体が認識し、さらに人とペットの共生する社会への理解が進むことにもつながります。

それでは、ペットのしつけについて考えるとき、ペットオーナーがまずしっかりと理解すべきことはなんなのでしょうか。社団法人日本動物福祉協会の山口千津子獣医師はこの質問に対し、「しつけとは、すべてをペットに我慢させることではないということをもまずご理解いただきたいと思います。しつけとは、『動物の5つの自由』を守ることを前提に、人とペットと一緒に幸せに暮らすための最低条件としてのルールをペットにも楽しく理解してもらおうことなのです」と答えてくれました。

この「5つの自由」は、1960年代に英国で生まれた考え方で、人と暮らす家畜や動物に最低限保証されるべき自由として定義されています。これは今では世界中で、ペットを飼育する上で重要な一つの指針として知られています。その自由とは、1) 飢えや渇きからの自由(健康維持のために適切な食事と水を与える)、2) 不快からの自由(温度、湿度など、それぞれの動物にとって快適な環境を作る)、3) 痛みからの自由(怪我や病気から守り、病気の場合には十分な獣医医療を施す)、4) 恐怖・抑圧からの自由(過度なストレスとなる恐怖や抑圧を与えず、それらから守る)、5) 自然な生態行動ができる自由(各動物の生態・習性に従った自然な行動が行えるようにしてあげる)という5つの定義です。

山口獣医師は、この「5つの自由」としつけの意義について次のように話してくださいました。「ペットも私たちと同じ命ある存在であり、痛みを感じ、感情もあるのだということを十分に理解していただくために、『5つの自由』を飼育に関する基本中の基本として、しつけについてお話する機会にも必ずふれるようにしています。そして、ペットとともに暮らすということは、つないだままにしておいたり、アクセサリのようにしたり、過剰に甘やかしたりするのではなく、家族や社会の仲間として迎えることであり、そのためには互いに心地よく暮らすための最低限のルールが必要だということに改めて気付く機会にしていただければと思っています。英国で見かける犬は非常にしつけが行き届いています。その結果、犬も社会で市民権を得、社会における共生と住み分けが進んでいます。実際英国では、『5つの自由』についての認知も高く、ペットオーナーたちは、ペットはともに暮らす仲間であるとの認識を強く持っており、ペットを社会の一員としてしつけ、育てることの重要性について自然に理解しているように思います。そして当然のことながら、ペットのしつけは大切なことですが、人とペットの共生の鍵を握るのはペットオーナー自身のモラルともいえるのではないのでしょうか。ペットのしつけは、ただ人間社会のルールを押し付けることではなく、ペットの立場に配慮することから始まり、社会の仲間として迎える意味を知ることがとても重要。このことはオーナーの意識の持ち方と合わせて、改めて考えてみる価値がありそうです。

マース ジャパンは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マース ジャパンが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に 1997年に設立したリサーチセンターである非営利団体コンパニオンアニマル リサーチ(CAIRC)とマース オーストラリアがサポートするコンパニオンアニマルに関わる活動を推進しているPIASと協力して発行しています。